

モザンビーク国 ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト ニュースレター

Vol.2 2011年 11月

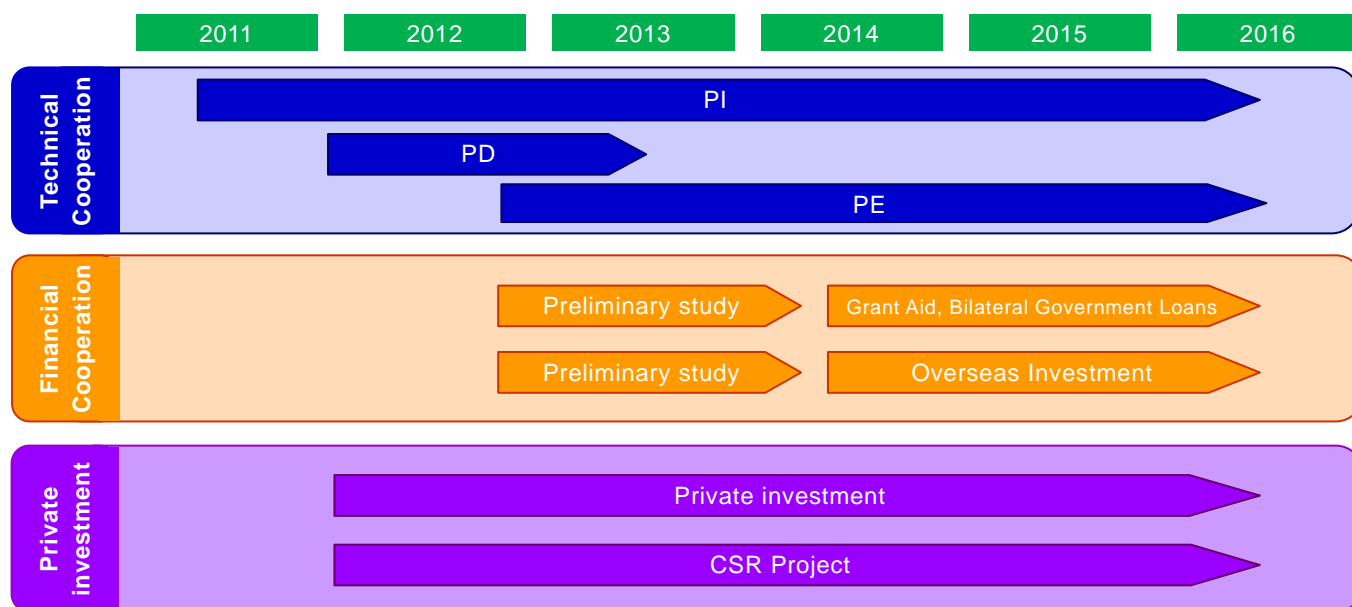
日・伯・モ3国による合同調整委員会と合同技術委員会が開催 —いよいよプロジェクトが動き出す—

合同調整委員会

2011年8月29日、ProSavanaプログラム全体の運営方針を決める合同調整委員会（JCC）がモザンビークの首都マプトで開催された。今回の会議では、これから新たに始まるナカラ回廊地域における農業開発マスタープラン策定支援調査（ProSavana-PD）ならびに農業技術普及プロジェクト（ProSavana-PE）の実施スケジュールが以下の図のように合意された。本プロジェクト（ProSavana-PI）はこれら2つのプロジェクトと緊密に連携しながら、ナカラ回廊地域の農業の発展を目指していくこととなる。



合同調整委員会の参加者



ProSavana プログラムにおけるプロジェクト実施スケジュール

合同技術委員会

同日、JCC 会議の後、合同技術委員会（JTC）が開催された。この、会議ではプロジェクトの実務者レベル（モザンビーク農業研究所（IIAM）/州農業局（DPA）、JICA、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA））で技術的な事項が議論される。この会議において、プロジェクトの研究計画の詳細がまとめられたテクニカルドキュメントの内容が合意された。これによって、ついに本プロジェクトの研究活動が本格的に動き出すこととなる。

また、この JTC では日本側がナンプラに建設を予定している土壌・作物分析室の構想が発表された。ナカラ回廊地域にはこのような機能を持った分析室が存在しないため、地域の土壌特性や作物の栄養状態の把握が遅れており、作物の生産性を向上させるための農業研究・技術開発の足枷となっている。日本側は、簡易で迅速な分析手法とそれを実現するための機材の導入を検討しており、この分析室の建設が実現すれば、土壌・作物栄養学研究の進展により、地域の農業環境条件に適した技術の開発とそれらの普及が期待される。



JTC 終了時に握手を交わす 3 国の代表者
（安養寺専門家（NTCI/JIRCAS）、Bias 所長（IIAM）、Santana 調整役（EMBRAPA））

プロジェクトメンバーの声

プロジェクトの本格開始に当たり、モザンビーク側の中心人物である以下の 3 名に本プロジェクトへの期待と意気込みを語っていただいた。



私はこのプロジェクトに非常に期待しています。私はナカラ回廊地域の人々を飢餓から救いたい。そのためには、プロジェクトは地域の農業生産を向上させ、人々の生活に変化をもたらさなければなりません。

Dr. Américo Uaciquete (モ国 ProSavana コーディネーター)



ブラジルのセラードは日本との協力によって不毛の大地から 40 年で世界の一大農業生産地帯に変貌しました。私は日本とブラジルの協力を得てセラード開発の半分である 20 年でナカラ回廊の農業開発を実現したい。

Mr. Fernando Chitio (IIAM 北東地域農業試験場 場長)



このプロジェクトがナカラ回廊地域の農業研究に力を与え、地域農業の生産性が向上することを期待しています。特に農民のために有益な技術を開発することを念頭に活動を行っていききたいと思います。

Mr. Carolino Martinho (IIAM 北西地域農業試験場 場長)

連絡先

モザンビーク国 ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト JICA 調査団事務所
c/o IIAM Nampula Av. Prolongamento FMLM, Km7, Caixa Postal:128, Nampula Mozambique
Tel: +258 82-4223542 (業務調整：鳴海)
E-mail: k.naruo@ntc-i.co.jp (研究調整：成尾)

